

団体名：社会福祉法人さぽうとにじゅういち

「困ったときは おたがいさま」をモットーに・・・

さぽうと 2 1 について

- 1979 年、インドシナ難民を支援するために、前会長の相馬雪香が設立を呼びかけ、政治・思想・宗教に偏らない市民団体として、「インドシナ難民を助ける会」が誕生しました。1992 年、その国内事業（教育の側面からの国内に定住する難民等の自立を支援する事業）を引き継ぎ、「社会福祉法人さぽうと 2 1」が設立されました。
- 振り返ればいつもそこに「懸命に学ぶ難民等日本への定住を覚悟した外国出身者」と、「その学びを支えたいと願うボランティア、寄付者」がいました。30 余年、変わらぬ光景がそこにあります。
- 現在、「さぽうと 2 1」の学習支援室には、毎週土曜日、小学生から 60 代の大人まで 60 名前後が机を並べ、その傍らには日本語教育の専門家も含めて、60 名近いボランティアが様々な形で学びの支援の活動に参加しています。
- 「学習支援室に来られる人」に対して何が出来るのだろうと考えるのと同時に、いつも私たちが考えるのは「学習支援室まで足を運べない人」の事です。「近くに教室がない」「働きづめで時間がない」「自由な行動が制限される状態にある」人たちに何かできることはないだろうか考えた時に、とにかくネット上でオリジナル教材を公開していこうと考えました。

「生活場面切取動画」について

- 平成 22 年に「標準的なカリキュラム案」が発表された時、正直、大きな戸惑いがありました。「生活上の行為の事例」を読みながら、難解で頭が痛くなりました。でも、きっとそこには、「生活者としての外国人」のために必要で大切な要素がたくさん詰まっているはずだと信じ、それを学習者の近くにいる私たち日本語支援者が、もっとやさしく、わかりやすい「ことば」に「翻訳」できないだろうかと考えました。そして、「生活上の行為」の一連の流れをホームビデオで撮影し、「動画」作成をしてみようと思い立ちました。

【対 象】「生活者としての外国人」(レベル問わず)

【内 容】3 1 の「生活場面」(「健康診断」「クリーニング店」「会社・飲み会」など) + α (「ミニ場面集」)

【使い方】利用者の好きのように「使いまわして」下さい。

- ① 「行為の流れ」を見て疑似体験し、「行動すること」への心の準備をしてもよい
- ② 支援者と一緒に視聴して、一時停止しながら、場面場面で必要とされる日本語や、より適切な表現を一緒に考えてもよい
- ③ 言葉だけではなく、「行動そのもの」に注目して、日本社会の習慣や価値観などについて考えてもよい

※その後、「ネット環境がない！」という教室現場からのお声にこたえて、「付属紙教材」も作成しました。私たちにとって何より大切なのは、そこで学ぶ人、それを支援する人たちにより有用な「使える」モノを提供することです。

